



地震への備えと対応

日頃の備え

- 家具の固定や置き方の工夫など耐震対策はできていますか
- 食料・飲料や灯り・履物など非常持出品などの準備はできていますか
- 隣近所と顔の見える関係づくりをしましょう
- 日々災害が発生した場合のシミュレーションをしてみましょう
 - ・自宅内の棚や窓ガラス等から身を守る場所はどこか
 - ・自宅周辺の危険物・高い場所・広い場所は何かあるか
 - ・家族との連絡方法を確認(災害伝言ダイヤルやSNS等)

激しい揺れ (あわてない! 冷静に)

- 机の下などで頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- 安全に消せる場合は火を消す
- 家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



提供: 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議

揺れがおさまった

- 火の元の確認、電気のブレーカーを落とす、ガスの元栓を閉める
出火したら逃げ口を背にして初期消火
- 怪我をしないよう底の厚い靴を履き、出口の確保
- テレビ、スマートフォンなどから正しい情報を入手
- 家族の安否・自宅の状況を確認

組内で安否確認・救助

- 隣近所に声をかけて安否確認
- 生き埋め者の救助活動・ケガ人の手当
- 各組長は被害状況などの情報を集め、助けが必要な場所に応援を求める



一時集合場所へ集合 (安否情報を持ち寄る)

- 町内の安否確認、被害情報の共有
- 救助活動や避難支援の協力
- 指定避難所へ避難する人も集合する



付近で火災等の危険発生

震災の危険解消

自宅での滞在が可能か

在宅避難

指定避難所

◆ 自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!

避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることや、感染症のリスクが高まることが想定されています。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。



・周囲に自宅避難を知らせよう!



・周囲で声かけし、食料や物資を分け合おう!

風水害への備えと対応

風水害時の行動

3日前

台風が発生した 情報収集

- テレビ・ラジオ・スマホなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報入手
- 非常持出品の確認

2日前

台風や大雨が来るぞ!! 準備

- 避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け
- 土のうや水のう、側溝の詰り除去等の浸水対策
- 町内や組長との情報共有や連絡手段の確認をする



1日前

雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- 情報収集を続けて、避難開始時期を判断



- 50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- 自主的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する

- 洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる
- 土砂災害(特別)警戒区域にいる
- 堤防の近くで、安全な建物*にいない ※鉄筋コンクリート造

どれか一つ以上該当する

該当しない

自宅などにとどまる

避難情報の発令等により避難行動!! 避難開始

警戒レベル	市民がとるべき行動	避難情報(名古屋市が発令)	防災気象情報(気象台等が発令)
5	命を守るための最善の行動	災害発生情報	
4	速やかに立退き避難等の避難行動 事態が切迫している場合は直ちに命を守る行動	避難指示(緊急) 避難勧告	指定河川洪水予報・土砂災害警戒情報・警戒など(警戒レベル相当情報)
3	高齢者等要配慮者は立退き避難 その他の市民は立退き避難の準備	避難準備・高齢者等避難開始	

ただちに避難! (垂直避難)

- 指定緊急避難場所までの道が危険な場合は、身近な建物のできるだけ上の階へ
- 屋外での避難が危険だと感じたら、自宅の上階へ

学区の取り決め、行動計画、心得など(ご協力ください)

- 中根学区では、伊勢湾台風や東海豪雨の際に浸水害が発生しています。
- 風水害時には、近隣の弥富学区の指定緊急避難場所への避難も検討しましょう。
- 学区外への指定避難所で避難生活を送る場合でも、その避難所の運営に積極的に協力しましょう。

東海豪雨時の浸水状況(平成12年名古屋市浸水実績図より)



【地震・風水害共通】地域で助け合いましょう!!

一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、右記のような高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法



やさしい言葉でゆっくり声かけ
メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方

普段、杖・押し車・車椅子などを使っていて、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法



複数で手伝う
身近にあるものを利用する